

2025 年 6 月 18 日
国立大学法人東北大学
国立成育医療研究センター

**子どもと女性の“いのち”に関する研究を加速
国立成育医療研究センターが
東北大学東北メディカル・メガバンク機構の戦略的パートナー第 1 号に**

【発表のポイント】

- 東北大学東北メディカル・メガバンク機構(ToMMo)と、国立成育医療研究センター(以下 国立成育)は、ToMMo のデータなどを活用した共同研究を推進する戦略的パートナーとなりました。これは ToMMo が新たに設けた制度の第 1 号となります。
- 戦略的パートナーとは、データへの深い理解、セキュリティへの配慮、高度な解析スキルがあるパートナーに対して、ToMMo が共同研究のためのプレリサーチ(研究計画作成目的でのデータ閲覧)を円滑に行える体制を構築するものです。
- ToMMo と国立成育は戦略的パートナーとなることにより、成育疾患と女性の健康・性差医療のより深い理解と、成果の社会実装を実現します。ToMMo と国立成育は、分野を横断する研究者の交流を一層進め、日本の子どもと女性をとりまく健康課題の研究に協力して取り組んでいきます。

【概要】

私たちの健康と病態、それらと遺伝・環境の関係などを理解する上で、一般住民を対象とする長期健康調査のデータは大変重要です。このデータの一層の活用を図るために、ToMMo では、専門分野において卓越した研究力を持つと同時に ToMMo のデータへの深い理解、セキュリティへの配慮、高度な解析スキルを持つ研究機関に対して、研究計画作成目的でのデータ閲覧を円滑に行える体制を構築し、「戦略的パートナー」として共同研究などを推進することにしました。そして、この第 1 号として国立成育医療研究センターを登録します。

今回の登録により、三世代コホート調査をはじめとする ToMMo のデータのポテンシャルを最大化し、成育医療と女性の健康に関する医学研究の発展にとどまらず、少子化と子育て支援、女性の活躍などの社会的課題へのアプローチも期待できます。

【詳細な説明】

研究の背景

超高齢化社会である日本では高齢者の疾病に関心が偏りがちであり、性差への認識も乏しかったため、子どもや女性の健康に関する研究は重要な意義を持つにも関わらず、これまで十分に進んできませんでした。そのため、成育疾患および女性の健康に関する研究分野には、未発掘の研究テーマや可能性が数多く存在すると考えられ、その研究の促進が求められています。

今回の取り組みと今後の展開

ToMMo は、データへの深い理解、セキュリティへの配慮、高度な解析スキルがあるパートナーに対して、共同研究のためのプレリサーチ(研究計画作成目的でのデータ閲覧)を円滑に行える体制を構築することとし、このたび国立成育がその戦略的パートナー第1号となりました。成育医療・女性の健康の専門研究機関である国立成育は、妊婦、子ども、青年、女性を対象とした医学研究をリードし広範で先進的な研究力を有していて、特に三世代コホート調査データとの高い親和性が予想されます。さらに、これまで ToMMo と数多くの共同研究を実施しておりバイオバンクデータへの理解が深く、これらのデータ利用を安全に行うために必要な配慮を認識しています。

お互いの高度な解析スキルを有する研究者をハブとして、データの利活用を促進することで、未解明な点も多い妊娠、出産、児の発達段階における生体のメカニズムや疾患、また女性の健康をめぐる課題について、新たな知見が得られることが期待できます。少子高齢化社会である日本において、子どもや女性の健康は大変重要な意義を持っていて、医学的側面だけではなく、社会的な課題への貢献も期待されます。



左から国立成育 五十嵐隆理事長、ToMMo 山本雅之機構長

【東北大学東北メディカル・メガバンク機構(ToMMo)について】

ToMMo は岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構とともに 2013 年より現在まで長期健康調査を継続しています。三世代コホート調査では妊婦とその家族、出生児、計約 73,000 人を調査し、地域住民コホート調査では、地域の一般住民約 84,000 人(宮城県・岩手県)を調査しています。これらの調査で得られた、生活習慣、既往歴、血液検査、生理機能検査結果、ゲノム、オミックス情報などの重層的なデータをバイオバンクに格納し、一定の手続きを経て研究に役立てています。

三世代コホート調査は世界でも類を見ない充実した調査であり、妊娠から出生、成長の各段階での健康と疾患、遺伝要因と環境要因の関係などを解明するための重要なデータとなっています。また地域住民コホート調査は壮年期、更年期、老年期に至る世代を中心としていて、女性の健康と疾患を解明するための重要なデータとなっています。

【国立成育医療研究センターについて】

国立成育は、2002 年の設立以来、受精・妊娠に始まり、胎児期、新生児期、乳児期、学童期、思春期を経て、次世代を育成する成人期に至るライフサイクルに生じる疾患(成育疾患)に関する医療(成育医療)および研究を推進してきました。2024 年 10 月には女性の健康総合センターが設置され、「女性の健康」に関する司令塔として、性差やライフコースの各段階に焦点を当てて、女性が健康であることを支援・推進するための研究やエビデンスの創出、情報発信を行っています。

研究においては、最先端の遺伝子解析技術を活用した難病解明プロジェクトや、小児がん中央診断の拠点として全国の医療機関に先進的な医療を提供しつつ、新たな病因遺伝子や発がん関連遺伝子の同定を行っています。また、社会医学・疫学研究では、小児を取り巻く社会環境要因が健康に及ぼす影響を分析し、国際共同研究にも積極的に取り組んでいます。さらに、母子保健、ゲノム医療実現推進、ヒト胚研究、再生医療、遺伝子治療、新生児マススクリーニング、環境省によるエコチル調査研究事業などに関し、科学的根拠に基づく提言を行なっています。

子どもから成人にわたる全ての世代のさまざまなライフステージにおいて、健全な次世代を育成するための医療と研究を推進しています。

【問い合わせ先】

(研究に関すること)

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 バイオバンク利活用・産学連携推進
センター長

教授 泉 陽子(いずみ ようこ) E-mail: yoko.izumi.d8@tohoku.ac.jp

(報道に関すること)

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 広報戦略室長

教授 長神 風二(ながみ ふうじ)

TEL: 022-717-7908 Email: tommo-pr@grp.tohoku.ac.jp

国立成育医療研究センター 広報企画室 村上・神田

TEL: 03-3416-0181(代表) E-mail: koho@ncchd.go.jp